

る。尙排泄囊より尾方に後方する排泄管は尾部に入り、約0.2mmの所で両側2枝に分岐して尾表に開口する。尾部は体部に浅く嵌入し大きさ0.42-0.48×0.03-0.04mmで鱗状膜がある。静止時は尾部を上位に浮遊す

る。

単性虫は「レディア」で0.5-0.7×0.2-0.3mmの長円筒形で6-10個のCercariaを包蔵している。

文 献

- 1) Max Lühe (1909) Die Süßwasserfauna Deutschland.
- 2) 小林晴治郎 (1922) 動物学会雑誌, 第34巻.
- 3) 武藤昌知 (1918) 中央医学会雑誌, 第25巻.
- 4) 武藤昌知 (1918) 中央医学会雑誌, 第26巻.
- 5) 越智シゲル (1921) 東京医事新誌, 第2919号.
- 6) E. C. Faust (1922) Parasitology Vol. 14.
- 7) E. C. Faust (1924) The Am. Jour. of Hyg. Vol. 4.
- 8) S. Yamaguti (1936) Zeitschrift f. Parasitenkunde. 8. Bd. 2. Heft.
- 9) S. Yamaguti (1940) Zeitschrift f. Parasitenkunde. 12. Bd. 1. Heft.
- 10) 久山正策 (1938) 岡山医学会雑誌, 第577号.

岡山県下吸虫類中間宿主の研究

(4)

「マメタニシ」に寄生する吸虫類「セルカリア」の季節的消長

岡山大学医学部寄生虫学教室 (主任 山口左伸教授)

稲 臣 成 一

[昭和25年8月10日受稿]

「マメタニシ」に寄生する「セルカリア」の季節的消長については、断片的に武藤 (1918), 伊藤 (1926) 両氏が報告した外は久山氏 (1938) の報告のみである。私は前報 (2)・(3) で岡山県上道郡大用水・二間川産「マメタニシ」に寄生する「セルカリア」について報告したが、之等「セルカリア」の季節的消長についても同時に追究したので報告する。

私が今迄に認めたのは7種で総合寄生率は10.85%であった。以下その各々に付いて記述する。

1. *Cercarir senoi* 之は大用水に於て7月0.6%, 8月, 9月各0.1%の極く僅少に

出現した。然も夏期の短期間に出現している。

2. *Cercaria mucobuccalis* 本種は両用水に於て季節に無関係に出現した。併し出現率曲線を見ると年に3回3-4月毎に大きな波の頂点を認めた。

3. *Cercaria of Pseudexorchis major* 本種も前種と同様に季節的に無関係に出現して、前種と共にその出現はいつも確実に分布も甚だ広いものである。

4. *Cercaria of Echinochasmus japonicus* 本種は4-10月頃の間に見られているが、各月の出現率は僅少である。

5. *Cercaria simplex* 大用水に於て極僅少に5月, 7月に各々0.2%を認めた。

6. *Cercaria of Cyathocotyle orientalis* 本種も又大用水に於てのみ8月0.06%, 9月0.07%の極く僅少を認めた。

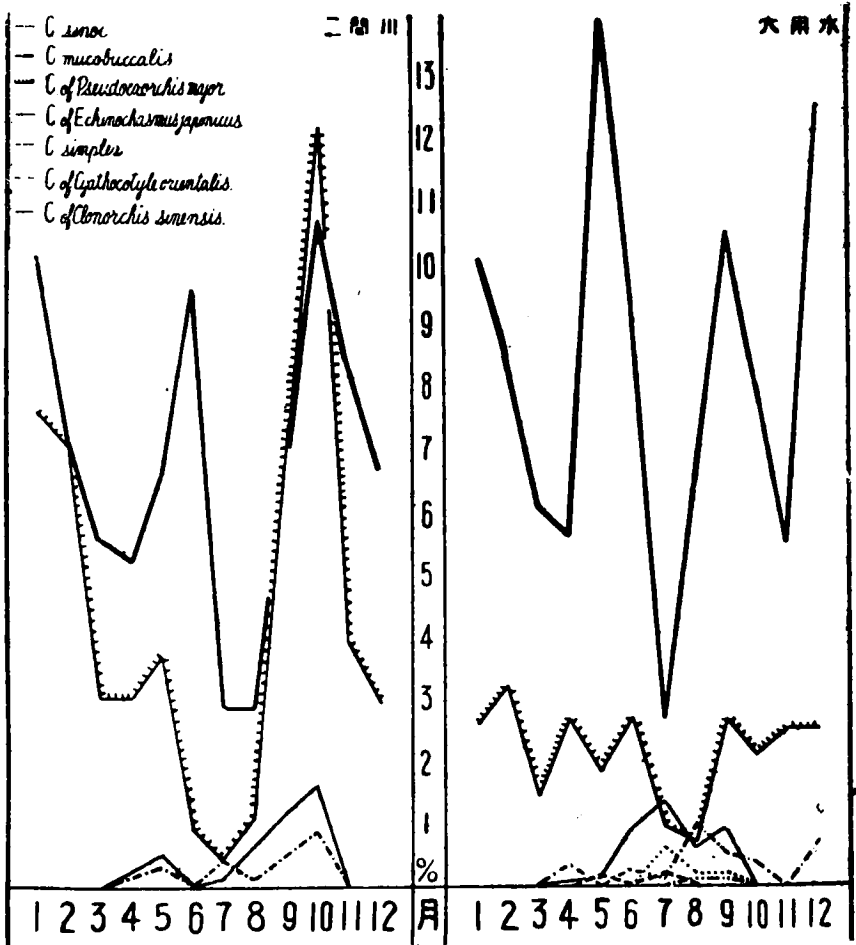
7. *Cercaria of Clonorchis sinensis* 本種は4月-10月迄の7月間に出現する事を認めた。

以上の事から考察すると *C. senoi*, *C. of Echinochasmus japonicus*, *C. simplex*, *C. of Cyathocotyle orientalis*, *C. of Clonorchis sinensis* は何れも春から秋にかけて出現しており、「マメタニシ」の習性と全く一致している。即ち「マメタニシ」は冬期は泥中に潜入して冬眠するもので、之等は「マメタニシ」の冬眠期前に「ミラキチュウム」として「マメタニシ」体内に浸入し、冬眠期間中は「レディア」の状態て幼貝の肝臓中に過す事は確實である越冬した「レディア」は4月中旬頃より「マメタニシ」の活動と同時に「セルカリア」が游出するものと思はれる。殊に *Clonorchis sinensis* に関するこの様な事実は武藤氏の観察と全く一致

している。併し久山氏の報告では年間「セルカリア」の游出を認めており、私の研究とは異つている。

之に反して *C. mucobuccalis*, *C. of Pseudoclonorchis major* は季節と関係なく年間出現している。

尙本研究実施に使用した「マメタニシ」の



二間川

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検査数	234	443	199	457	554	207	418	840	881	122	418	342	5115
B	24 10.2	32 7.2	11 5.5	24 5.2	37 6.6	20 9.6	12 2.8	24 2.8	61 6.9	13 10.6	35 8.3	23 6.7	316 6.1
D	18 7.6	31 6.9	6 3.0	14 3.0	21 3.7	2 0.9	2 0.4	10 1.1	64 7.2	15 12.2	16 3.8	10 2.9	209 4.1
E				1 0.2	2 0.3		2 0.4	1 0.1	5 0.5	1 0.8			12 0.2
Cl				1 0.2	3 0.5		1 0.2	6 0.7	11 1.2	2 1.6			24 0.4
計	42 17.8	63 14.1	17 8.5	40 8.6	63 11.1	22 10.5	17 3.8	41 4.7	141 15.8	31 25.4	51 12.1	33 9.6	561 10.9

大用水

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検査数	416	499	280	551	488	402	1149	1401	1240	430	440	423	7719
A							7 0.6	2 0.1	1 0.1				10 0.1
B	42 10.1	42 8.4	17 6.0	31 5.6	68 13.9	37 9.2	31 2.7	92 6.5	129 10.4	34 7.8	24 5.4	53 12.5	601 7.7
D	11 2.6	16 3.2	4 1.4	15 2.7	9 1.8	11 2.7	11 0.9	11 0.7	33 2.7	7 1.6	11 2.5	11 2.5	150 1.8
E				2 0.3		1 0.2	2 0.1	15 1.0	7 0.5	2 0.4		3 0.7	32 0.4
F					1 0.2		3 0.2						4 0.05
J								1 0.06	1 0.07				2 0.02
Cl				1 0.1	1 0.2	4 0.9	16 1.3	9 0.6	12 0.9				33 0.4
計	53 12.7	59 12.8	21 7.5	49 8.8	79 16.3	53 13.1	60 5.2	130 9.2	183 14.7	4.3 10.0	35 7.9	67 15.8	832 10.7

A. *Cercaria senoi*. B. *Cercaria mucobuccalis* D. *Cercaria* of *Pseudoxorchis major*
 E. *Cercaria* of *Echinochasmus japonicus* F. *Cercaria simplex* J. *Cercaria* of *Cyathocotyleorientalis*
 Cl. *Cercaria* of *Clonorchis sinensis*

産地岡山県上道郡地方は古くから「肝臓ジストマ」流行地として知られており、此地方の

人体寄生率は昭和22年25.95%で此地方住氏の約1/4に本種の寄生が見られている。

文 献

1) 稲臣成一 (1953) 岡山医学会雑誌 第65巻。

岡山縣下吸虫類中間宿主の研究

(5)

児島湾沿岸に於ける「マメタニシ」の分布について

岡山大学医学部寄生虫学教室 (主任 山口左伸教授)

稲 臣 成 一

〔昭和25年8月10日受稿〕

「肝臓ジストマ」の分布は元来その第1中間宿主「マメタニシ」の分布と平行している。岡山県南部の児島湾沿岸一帯では明治8年(1875)石坂堅壯氏の日本に於ける「肝臓ジ

ストマ」母虫の最初の記録以来「肝臓ジストマ」流行地として有名である。私は此両者の関係を調査する礎基として先づ「マメタニシ」の分布について追究したので報告する。